

# みなさんのお気持ちを被災地に届けました、ご協力ありがとうございました

〈岩手県・陸前高田市への災害支援ボランティアの報告〉

しんぶん赤旗読者ニュース  
2011. 5  
日本共産党上小更埴地区委員会  
Tel.0268・22・2631



「復興に向けてみんなで頑張ろう」と地元のみなさんと（民商の仮設事務所前）

## 4月25日（月）一路奥州市へ

午前8時30分、こぶし会館前で岩手県・陸前高田市に行く災害ボランティア隊の出発式。古市市議の進行のもと、戸谷地区委員長、高村京子県議、金井忠一市議団長から激励のあいさつと救援金、支援物資の目録を受け取りました。25人乗りのマイクロバスは、支援物資<◆缶詰（魚）120缶以上、信州みそ30キロ、ほか調味料など多数◆男性用、女性用、子ども用の下着類多数◆長靴60足◆靴下100足以上◆コメ200キロ以上◆バケツ20以上>とボランティア参加者13人（女性2人、男性11人、26歳～71歳）を乗せていざ出発。初日は、8時間かけて奥州市へ。

## 4月26日（火）陸前高田市で活動1

菅原明奥州市議の案内で2時間かけて陸前高田市に。最初に目にしたのは左上の写真の光景です。言葉もありません。そして、市長の後援組織「市民の声」の「共同支援センター」で、支援物資をおろし、すぐ前の無料青空市に出すと大勢の人が集まってきました。その後、手分けをして「陸前高田民報」と「支援制度の活用」のチラシ配布と戸別訪問（200軒以上）。忙しい中、戸羽太市長に会うことができ、救援金（100万円）を届けました。帰りは、橋の通行止めがあちこちにあり、午後8時前によく到着。

## 4月27日（水）陸前高田市で活動2

陸前高田民主商工会で活動。全国から寄せられた支援物資の仕分けと集落への配達に。しんぶん赤旗の記者が同行取材し、28日の日刊紙に紹介されました。

## 4月28日（木）奥州市役所で市長、議長。帰路へ

宿舎のある奥州市役所で小沢昌記市長と渡辺忠議長に預かった母袋市長と南波議長のメッセージと党からの救援金（10万円）を届け、帰路につきました。鹿鳴荘バスの宮崎さんには、4日間で1500キロぐらいの運転と仕分け作業などにも協力していただきました。予定したボランティア活動を参加者全員で行うことができました。（久保田由夫）

※参加者全員の感想も入れた今回の災害ボランティアの記録集は、作成中です。

<写真は左から、最初に見た陸前高田市の光景、共同支援センター、JAやNTTがある市内中心部>



左上が07年11月の会派視察の写真です。後ろが4万本の松林で景勝地だった高田松原。右上が津波被害から奇跡的に残った一本の松、この松が復興のシンボルとなっています。左下が藤倉泰治陸前高田市議に地区委員会から預かった救援金（100万円）と支援物資（目録）を渡す。右下が市の災害対策本部であいさつする戸羽市長（左）、藤倉市議（中）、菅野隆介後援会長（右）。

# これまで経験したことない大災害、心を一つにして復興の支援の輪をひろげましょう (参加者一同)



左から、建物の上のトラック（大船渡市）、陸にあげられた船（気仙沼市）、あちこちで見かけた感謝の看板（住田町）

## 深い悲しみを乗り越えて、復興にかける思いを応援しましょう

### ◇戸羽太陸前高田市長のあいさつ

昨日現在（4月25日）で1390名の方がお亡くなりになっています。なお、800名以上の方が行方不明です。市の職員も68名の仲間が命を落としております。今回の震災でお亡くなりなられた方々や職員の仲間の思いをしっかり受け止めて、被災前の陸前高田市よりももっとも、みなさんから称賛していただけるような街を市民のみなさんと手を携えてつくってまいりたいと思っています。この震災も、半年たち一年たつとだんだん忘れて去られてしまうのかなーとすごく心配しています。どうか陸前高田市のことを忘れないで末永く応援をしていただければ幸いです。日本共産党の皆様方にはこれまでも一緒に街づくりをさせていただいて、私も選挙のみならず、ずっと一緒に活動してまいりました。これからも藤倉市議も仲間であり、今回及川一郎議員が津波で命を落とされました。なんとか頑張っただけですので、今後とも引き続き応援をよろしくお願いいたします。本当に感謝しております。

### ◇藤倉泰治陸前高田市議のあいさつ

3月11日から行方不明だった共産党市議団長の及川一郎さん（63歳）は、マイヤ陸前高田店（陸前高田市の中で一番大きいスーパー）の非常階段の下のがれきの中で、今日、遺体が発見された。これも、久保田市議や渡辺市議がわざわざ上田市から会いに来てくれたからだと思い、みなさんの訪問が何かの縁と思っている。先ほど、戸羽市長や前市長の中里長門さんもここで皆さんと会えたのも、及川団長の導きだと思っている。

### ◇菅野隆介「市民の声」会長のあいさつ

住まいは、今回の津波で流され、家族で親戚の家を頼って生活しています。大津波で、自宅や工場（煎餅店）が一瞬の内に飲み込まれていく光景を見たとき、これからは後ろを振り返らずに、前を向いていこうと気持ちを切り替えました。だから、「市民の声」などの活動を一生懸命取り組んでいくことにしました。私どもは市長をしっかり支えていきたと思っています。みなさんの力もえながら、陸前高田の復興に尽くしていきたい。

上から、中里長門・前陸前高田市長（後列真ん中、前党員市長）、次は集落の広場にシート広げて支援物資を届ける（田中秀和赤旗記者が撮影）、下は小沢奥州市長（左）、渡辺議長（右）（奥州市役所で）

### ◇小沢市長のあいさつ

「わざわざ上田から義援金と真心をお届けいただきありがとうございました。共産党のみなさんの今回の震災に対して思い入れの強さと具体的な行動の素早さにあらためて敬服しています。陸前高田では、戸羽市長が中心になって、街の復興にかけておられますけれど、いかんせん市役所が壊滅的な打撃を受けており、ボランティアを受け入れる体制すらできない状況です。諺に『人はパンだけで生きるのではない』とありますが、生きるための最低限のことは支援できますが、それ以外に笑顔であるとか、連帯という気持ちを届けてあげて被災された方々の気持ちをいかに高めてあげることができるか、寄り添ってあげるかということの方が、おそらく大きな手助けや支援になるのだと思います。具体的なことではなくとも思いを寄せていただければ、復興のスピードが速まるのではないかと思います。市長としての、率直な思いと今日おいいただいたボランティアの皆さんに心からの御礼の言葉とさせていただきます。」

